



受動喫煙

NBS
119

この言葉はもう皆さんよくご存知だと思います。

喫煙者自身が吸っている煙だけでなくタバコから立ち昇る煙や喫煙者が吐き出した煙にも、**ニコチン**や**タール**など多くの**有害物質**が含まれています。

本人が喫煙しなくても周りに漂っているタバコの煙を、自分の意思に関係なく吸わされてしまうことを**受動喫煙**と言います。

国立がんセンターの研究によりますと受動喫煙による肺がんと虚血性心疾患によって年間**6,800人**が亡くなっていると報告されていて、健康への影響はかなり深刻です。

最近では、全世界的に公共の場所や職場での禁煙化が法的な規制の下で進んでいます。その効果として規制後まもなく急性心筋梗塞や喘息等の呼吸器系疾患による入院者数が**減少**したことが報告されているそうです。

たばこの煙

喫煙者のかたにとっては、至極のひと時であるたばこの煙には、なんと約**4000種類**の化学物質、

約**200種類**の有害物質、**60種類**以上の発がん物質が含まれているといわれています。

もちろん自らが吸込まなくても、たばこから立ち上がる煙にも、口から吐き出される煙にも、同様の

悪性物質が含まれています。



御家庭でこんなことになってませんか？



西日本防災システム
NISHINIHO BOHSAI SYSTEM Co., Ltd
<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社Top Pageへ ➡

ペットの受動喫煙

アメリカでの公表資料です

2003年12月9日付、ニューヨークタイムズ。2002年タフツ大獣医師のグループが猫の受動喫煙により約**3.2倍**の悪性リンパ腫が発生することを報告し、さらにこのリンパ腫は悪性度が非常に高く、高水準、高額の治療費をかけても約半数が助からない場合が多いと発表されました。



この発生頻度は喫煙者と同居するとさらに高くなるようです。

(アメリカ野生動物保護団体の創始者) Susan Kilgore はペットが受動喫煙でがんとなる危険性のあることを、述べています。

また、通常 **犬の肺がん**は稀だそうです。統計によれば確率は(1/25000/年)のようですが、'92年の American Journals of Epidemiology によれば、受動喫煙で**51匹**の犬が肺がん、**83匹**が他のがんにかかったと報告しています。この肺がんは全がんの60%にも相当するとのこと。コロラド大では、プードルなど短い又は中型の鼻を持った犬に高い確率で発生するとし、'98年にはコリー犬など長い鼻の犬に鼻腔がんが受動喫煙で2倍も多く発生することも示しているようです。さらに、これらのがんはたばこの発がん物質が鼻粘膜に侵入するためだと推論しているようです。私達は、たばこ発がん実験にマウスが使われ高い確率でがんを発症することは事実として認識しており、人間社会でペット化されている動物についても犬の実験的肺がんの成功した報告や猿が人為的にニコチン依存症にされたのち肺がん死した事実も認識しています。



ペットに対する受動喫煙 について - 西日本防災システム

喫煙されるかたは、嗜好品でもある喫煙を止めるか、止めないかは、ご自身の体ですから、誰かに言われたからとかではなく、ご自身で判断されるのが一番良いのですが、ペット達は受動喫煙を避ける事も、文句を言う事も、拒否する事もできません。あなたが吸えば、あなたに寄り添ってるペット達は一緒に吸います。体にダメージが与えられます。文句は言いません。

そんなけなげなペット達の命のことを是非、是非考えてください！



西日本防災システム
NISHIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd
<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社Top Pageへ 